



デスクトップ マネジメントについて

HP Business Desktop dx5150モデル

製品番号 : 375370-293

2005年8月

このガイドでは、一部のモデルにプリインストールされているHPのセキュリティ機能とHP Client Management Solutionsの概念および使用手順について説明します。

© Copyright 2004, 2005 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。

MicrosoftおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

その他、本書に掲載されている会社名、製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

HP製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属の保証規定に明示的に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対しては、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書には、著作権によって保護された所有権に関する情報が掲載されています。本書のいかなる部分も、Hewlett-Packard Companyの書面による承諾なしに複写、複製、あるいは他言語へ翻訳することはできません。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に記載されている製品情報は、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

以下の記号は、本文中で安全上重要な注意事項を示します。



警告：その指示に従わないと、人体への傷害や生命の危険を引き起こす恐れがあるという警告事項を表します。



注意：その指示に従わないと、装置の損傷やデータの損失を引き起こす恐れがあるという注意事項を表します。

デスクトップ マネジメントについて

HP Business Desktop dx5150モデル

初版 2004年12月

改訂第1版 2005年8月

製品番号：375370-293

日本ヒューレット・パッカード株式会社

目次

出荷時設定の変更	2
Altiris Deployment Solution Agent	2
リモート システム インストール	3
ソフトウェアのアップデートと管理	4
HP Client Manager	4
HP Client Foundation Suite	6
HP Client Premium Suite	6
HP System Software Manager	6
Dantz Retrospect Express	7
Proactive Change Notification	8
Subscriber's Choice	9
廃止されたソリューション	9
ROMフラッシュ機能	10
リモートROMフラッシュ機能	11
ブートブロックROM	11
リプリケートセットアップ機能	12
起動可能デバイスの作成	13
デュアルステート電源ボタンの設定	17
インターネットWebサイト	18
標準規格およびパートナー企業	19
資産情報管理機能およびセキュリティ機能	20
パスワードのセキュリティ	22
スーパーバイザパスワードの設定	22
ユーザパスワードの設定	23
ユーザパスワードの入力	23
スーパーバイザパスワードの入力	24
ユーザパスワードまたはスーパーバイザパスワードの変更	25
ユーザパスワードを忘れてしまった場合	26
ケーブルロックの取り付け	26
障害通知および復旧機能	27
耐サージ機能付連続供給電源装置	27
温度センサ機能	27

デスクトップ マネジメント

HP Client Management Solutionsは、ネットワーク環境にあるデスクトップ、ワークステーション、およびノートブック コンピュータの管理と制御の分野で、標準のソリューションを提供しています。HPはデスクトップ マネジメントのパイオニアとして1995年に、デスクトップを完全に管理できる業界初のパーソナル コンピュータを世に送り出しました。HPはマネジメント機能の特許を取得しています。以来、デスクトップ、ワークステーション、およびノートブック コンピュータの効果的な導入、設定、および管理に必要な標準化とインフラストラクチャの開発において業界全体の取り組みをリードしてきました。HP Client Management Solutionsは、ライフサイクル ソリューションを提供する幅広い取り組みの中でも重要な位置を占めるもので、デスクトップ コンピュータのライフサイクルの4つの側面である計画、導入、管理、移行でユーザをサポートします。

デスクトップ マネジメントの主要な機能と特長は、次のとおりです。

- 出荷時設定の変更
- リモート システム インストール
- ソフトウェア アップデートおよびマネジメント機能
- ROMフラッシュ
- 資産情報管理機能およびセキュリティ機能
- 障害通知および復旧機能



このガイドで説明される機能のサポートについては、機種またはソフトウェアのバージョンにより異なることがあります。

出荷時設定の変更

お使いのコンピュータには、システム ソフトウェア イメージがプリインストールされています。ソフトウェアの設定手順を簡単に済ませると、すぐにコンピュータを使用できます。

プリインストールされたソフトウェア イメージの代わりにカスタマイズされたシステム ソフトウェアおよびアプリケーション ソフトウェアを使うこともできます。カスタマイズされたソフトウェア イメージを展開するには、いくつかの方法があります。

- プリインストールされたソフトウェア イメージを展開した後、追加するアプリケーションをインストールする
- Altiris Deployment Solutionなどのソフトウェアの導入用ツールを使用して、プリインストール ソフトウェアの代わりにカスタマイズされたソフトウェア イメージを使用する
- ディスク複製手順を使用して、ハードディスク ドライブの内容を別のハードディスクにコピーする

最適なコンピュータ環境の構築方法は、お使いの情報技術環境や作業内容によって異なります。HP ライフサイクル ソリューションに関する弊社のホームページ (<http://whp-sp-orig.extweb.hp.com/country/us/en/solutions.html>、英語サイト) には、お使いの環境に適したコンピュータの導入方法を選択する際に役立つ情報が掲載されています。

Restore Plus! CD、ROMからのセットアップ、およびACPIハードウェアにより、システム ソフトウェアのリストア、コンフィギュレーション マネジメント機能、トラブルシューティング、および省電力機能を利用することができます。

Altiris Deployment Solution Agent

一部のWindows® XP Professionalモデルでは、Altiris Deployment Solution Agent はコンピュータにプリロードされています。このプログラムをインストールすると、管理者のDeployment Solutionコンソールとの通信が可能になります。

Altiris Deployment Solution Agentをインストールするには、以下の手順で操作します。

1. [スタート]をクリックします。
2. [すべてのプログラム]をクリックします。
3. [Software Setup] (ソフトウェアのセットアップ) をクリックします。
4. [次へ]をクリックします。
5. 下へスクロールし、Altiris AClientをインストールするリンクをクリックします。

リモート システム インストール

Preboot Execution Environment (PXE) を起動すれば、リモート システム インストールを使用してネットワーク サーバからソフトウェアやコンフィギュレーション情報 (コンピュータの設定情報) を取り出し、コンピュータをセットアップすることができます。リモート システム インストールの機能は、通常、システム セットアップやコンフィギュレーションのためのツールとして使用しますが、次のような場合にも使用できます。

- ハードディスク ドライブをフォーマットするとき
- 1台以上の新しいコンピュータにソフトウェア イメージを導入するとき
- フラッシュ ROMを使用してシステムBIOSをリモートでアップデートするとき ([11ページの「リモートROMフラッシュ機能」](#)を参照)
- システムBIOSを設定するとき

リモート システム インストールを起動するには、起動時に表示される HP ロゴの画面の右下隅に[F12 = Network Service Boot]と表示されたら、すぐに[F12]キーを押します。画面のメッセージに従って、リモート システム インストールを起動します。デフォルトの起動順序はBIOSのコンフィギュレーションの設定ですが、常にPXEを起動するように変更できます。

HPとAltiris社の提携により、企業におけるコンピュータの導入と管理を短時間で容易に実行できるツールが開発されました。このツールを使用すると、TCO (維持管理費) が大幅に削減されます。HPのコンピュータが、企業環境内で最も管理しやすいクライアント マシンになります。

ソフトウェアのアップデートと管理

HPでは、デスクトップ コンピュータ、ワークステーション、およびノートブック コンピュータのソフトウェアを管理し、アップデートするための以下のツールを提供しています。

- HP Client Manager
- HP Client Foundation Suite
- HP Client Premium Suite
- HP System Software Manager
- Dantz Backup and Recovery
- HP Proactive Change Notification
- HP Subscriber's Choice

HP Client Manager

HP Client Managerは、サポートされているすべてのHP Business Desktop PC、ノートブック コンピュータ、およびワークステーション モデルで無料で使用できます。SSMは、HP Client Managerに統合されており、HPクライアントシステムのハードウェアの状態を中央から追跡、監視、および管理できるようにします。HP Client Managerは、HP インスタント サポート ツールとの強力な統合により、ハードウェアの問題解決にかかる時間を短縮します。HP インスタント サポート ツールは、診断プログラム、システム状態スキャン、アクティブ チャット、HP Knowledgebaseへのアクセス、およびSoftPaqの自動収集に使用されます。HP Client ManagerはHP ProtectToolsとも統合することにより、TPMを使用可能なクライアント システムを特定、リスト化、および初期化します。

HP Client Managerには、ローカルでの通知機能があります。過熱状態、SMARTドライブの障害の警告などをローカル ユーザのコンピュータ画面に表示できます。管理者は、警告がどのようにクライアント側でローカルに処理されるかを制御できるようになりました。クライアント ユーザによる通知のオン/オフの許可、および受信した通知の処理方法を制御できます。さらに管理者は、ローカルのHPクライアントに対して表示される通知を選択できます。

HP Client Managerを使用すると、次のことが可能になります。

- CPU、メモリ、ビデオ、セキュリティ設定などの役立つハードウェア情報を取得する
- システム状態を監視して、問題が発生する前に解決できるようにする
- ハードウェアのBIOS、ドライバ、およびセキュリティ設定を更新するためのSoftPakを自動的に収集し、リモートで配布する
- ハードウェアの問題を迅速に解決するためのプロセスを自動化する

HP Client Managerは、他のAltirisクライアント ライフサイクル管理ソリューションと同じAltirisインフラストラクチャを使用しています。この設計によって、セットアップおよびメンテナンスが必要なインフラストラクチャが1つだけになるため、IT担当者には大きな利点となります。情報が1つのデータベースに格納されるため、完全で、かつ整合性のあるインベントリ レポート、システム状態、およびセキュリティ情報が取得されます。クライアントシステムのハードウェアおよびソフトウェア両方の管理タスクの進行状況をスケジュールして監視するための、単一で、一貫したコンソール インタフェースを使用できます。

HP Client Managerについて詳しくは、http://h18000.www1.hp.com/im/client_mgr.html (英語サイト) を参照してください。

HP Client Foundation Suite

Foundation Suiteには、その主要機能を担うAltiris Migration Suiteが含まれます。Altiris Migration Suiteは、Altiris Inventory SolutionとDeployment Solutionから構成されています。Foundation Suiteを使用すると、Quickstartページが追加されてセットアップが容易になり、ソフトウェアを活用できるまでにかかる時間を短縮できます。さらに、Foundation Suiteには、HP Client ManagerとHP Systems Insight Manager Connectorも含まれています。

HP Client Premium Suite

Premium Suiteには、その主要機能を担うAltiris Client Management SuiteのLevel 1が含まれます。また、Quickstartページや、付加価値が付いたHPソリューションであるHP Client Manager、HP Systems Insight Manager Connector、およびHP OpenView Connectorが追加されます。

HP System Software Manager

HP System Software Manager (SSM) は、ネットワーク上にあるHP Business PCのデバイス ドライバおよびBIOSアップデートのリモート展開を自動化するための、無料のユーティリティです。SSMを実行すると、各ネットワーククライアントシステムにインストールされているドライバおよびBIOSのリビジョン レベルが（ユーザとの対話なしに）自動的に確認され、このインベントリと、すでにテストされ、中央のファイル格納ディレクトリに格納されているシステム ソフトウェアのSoftPaqが比較されます。SSMでは次に、ネットワークPC上の古いリビジョンのシステム ソフトウェアが、ファイル格納ディレクトリで使用可能な最新のレベルに自動的にアップデートされます。SSMではSoftPaqアップデートが正しいクライアント システム モデルにだけ配布されるため、管理者は確実かつ効率的に、SSMを使用してシステム ソフトウェアを最新版に維持できます。

System Software Manager は、HP OpenView やMicrosoft® Systems Management Server (SMS) などのエンタープライズ ソフトウェア配布ツールと統合されています。SSMを使用すると、SSM形式にパッケージ化された、顧客が作成したアップデートや他社製アップデートを配布できます。

SSMは、<http://www.hp.com/go/ssm/>（英語サイト）から無料でダウンロードできます。

Dantz Retrospect Express

Dantz Retrospect Expressは、単一のWindowsデスクトップまたはノートブックコンピュータを保護します。Retrospect Expressによって、ウイルス、新しくインストールしたソフトウェア、ユーザによるエラー、ハードウェアの損傷、ハードウェアのアップグレード、ハッカー、コンピュータの紛失または盗難などによるデータ損失からのリカバリが可能になります。単純な複製か進行形のバックアップのどちらかを選択でき、直感的なセットアップ ウィザードによって数分でコンピュータを再び稼働させることができます。最善の保護機能を実現するために、Retrospect Expressにはディザスタ リカバリが組み込まれています。各社の製品にRetrospectをバンドルしているハードウェア製造元の一覧と、これらの製品の購入方法を表示するには、[ここをクリックしてください](#)。

Retrospect Expressをインストールして、5分以内に最初のバックアップを実行できます。Retrospectでは、いくつかの簡単な質問に答えるだけでバックアップ計画を実装できます。復元はすばやく簡単に実行されます。復元をオプティカルディスクから実行することが必要になると、そのファイルがどのバックアップ メディアに含まれているかを知らなくても、Retrospect Expressが自動的にそのファイルの場所を見つけます。

ボタンを押すだけで、ファイルとフォルダを外付けハードディスク ドライブに複製します。複製操作によって、情報がコンピュータのハードディスク ドライブから外付けハードディスク ドライブにコピーされます (バックアップ ボタンが組み込まれた外付けハードディスク ドライブの場合は、そのボタンを押すだけで簡単に複製を起動できます)。複製を使用すると、外付けハードディスク ドライブ上のファイルとフォルダを、Windowsエクスプローラを使用して簡単に表示、操作、および復元することができます。複製プロセスでは、外付けドライブ上にあった以前のバックアップ データが上書きされるため、領域が節約されます。また、新しいファイルまたは直前のバックアップ以降に変更されたファイルだけがコピーされるため、時間も節約されます。

複数バージョンのファイルとフォルダをバックアップできます。進行形のバックアップでは、以前のバージョンのファイルとフォルダが保持されているため、コンピュータをデータが破壊される前の任意の時点でロールバックできます。バックアップ操作を実行するたびに、Retrospect Expressによって、ユーザがファイルの取得またはコンピュータ全体の復元（ディザスタリカバリ）を行うために必要なすべての情報が含まれた復元ポイントが作成されます。この情報には、すべてのオペレーティングシステムファイルと設定、デバイスドライバ、およびアプリケーションとその設定が含まれます。この復元ポイントは迅速に作成され、それにより、バックアップが実行された任意の時点への100%正確な復元が可能になります。これは、他のバックアップソフトウェアの機能より優れています。

また、Backup Expressはディザスタリカバ리를サポートします。ディザスタリカバリにより、（ハードディスクドライブ障害またはウイルスによるデータの損失などの）壊滅的な障害が発生した場合に、お使いのシステムを再起動および復元できます。ディザスタリカバリCDからの起動により、お使いのシステムを使用できなくなる前の状態に戻すことができます。

Dantz Retrospect Expressについて詳しくは、http://www.dantz.com/en/products/win_express/index.html（英語サイト）を参照してください。

Proactive Change Notification

Proactive Change Notificationプログラムは、Subscriber's ChoiceのWebサイトを利用して、以下のことを事前にかつ自動的に行います。

- ほとんどの企業向けHP製コンピュータおよびサーバでハードウェアおよびソフトウェアの変更があった場合に、最も早く60日前に電子メールでProactive Change Notification（PCN）を通知する
- ほとんどの企業向けHP製コンピュータおよびサーバについてのCustomer Bulletins、Customer Advisories、Customer Notes、Security Bulletins、およびDriver alertsを含んだ電子メールを送信する

特定のIT環境に該当する情報のみを受け取るようにするため、ユーザ専用のプロファイルを作成します。Proactive Change Notificationプログラムの詳細およびカスタムプロファイルの作成方法については、<http://www.hp.com/go/pcn/>（英語サイト）を参照してください。

Subscriber's Choice

Subscriber's ChoiceはHPのクライアントベースのサービスです。ユーザのプロファイルを基に、製品を使用する際のヒント、特集記事、およびドライバやサポートに関する警告や通知を提供します。Subscriber's Choice Driver and Support Alerts/Notificationsでは、購読するようプロファイルに設定した情報が閲覧および入手可能になると、電子メールで通知します。Subscriber's Choiceの詳細およびカスタムプロファイルの作成については、<http://www.hp.com/go/pcn/>（英語サイト）を参照してください。

廃止されたソリューション

Desktop Management Task Force (DMTF) は、10年近く前にDesktop Management Interface (DMI) 標準を導入しました。Common Information Model (CIM) などの新しい標準が採用されたため、DMTFはDMIの廃止を進めてきました。HP Client Management Solutions、HP Systems Insight Manager、およびWindows Management Instrumentation (WMI) と呼ばれるCIMのMicrosoftによる実装でのその他の進歩に伴い、2004年1月1日以降に導入されたHPの新しい市販のデスクトップコンピュータ、ワークステーション、およびノートブックコンピュータにはHP Insight Management Agentが含まれなくなっています。

Insight Management (IM) エージェントは、以下の機能を提供していました。

- DMIサポートにより、Insight Manager 7やその他のDMI準拠の管理アプリケーションでクライアントシステムを管理できました。
- Web エージェントにより、Web ブラウザでローカルとリモートの両方でシステムを管理できました。
- 状態の警告をユーザに知らせるときに、ローカルに通知するかまたは中央管理コンソールに送信できました。

Insight Managerは現在、HP Systems Insight Manager Software (HP SIM) に置き換わっています。HP SIMは、WMIを使用してクライアントシステムの情報を取得します。Altiris Connector for HP Systems Insight Managerが使用可能であり、これによって、HP SIMコンソールからHP Client Management Solutionsを使用できます。

ROMフラッシュ機能

お使いのコンピュータでは、オペレーティング システムとの情報のやりとりなどを行う基本入出力システム (BIOS) がプログラム可能なフラッシュROMに記憶されているので、必要に応じて簡単にアップグレードすることができます。ROMのアップグレードには RomPaq ディスケットが必要です。RomPaq ディスケットは、インターネットのHPホームページからダウンロードできます。ROMのアップグレード手順については、RomPaq ディスケットに付属の説明を参照してください。



注意: コンピュータにスーパーバイザ パスワードを設定しておけば、システムROMの内容が不用意に変更されることを防止できます。コンピュータにスーパーバイザ パスワードが設定されていないと、ROMへの書き込みが禁止されていないので、不用意にROMの内容が変更されてしまう危険があります。

システムROMのバージョンがお使いのコンピュータのモデルやオペレーティング システムに合っていないと、コンピュータが正しく動作しないことがあります。

System Software Managerを使用すると、システム管理者が、複数のコンピュータに同時にスーパーバイザ パスワードを設定することができます。

詳しくは、<http://www.hp.com/go/ssm/> (英語サイト) を参照してください。

リモートROMフラッシュ機能

リモートROMフラッシュ機能を利用すれば、システム管理者は、ネットワーク管理端末からリモートでコンピュータのROMを安全に書き換えることができます。複数のHPのコンピュータに対してこのような作業をリモートで行うことができるので、ネットワーク上のコンピュータのROMを適切にアップグレードし、少ない費用で管理することができます。



リモートROMフラッシュを使用するには、リモート ウェイク アップ機能を使って、お使いのコンピュータの電源を入れておくか、再起動しておく必要があります。

リモートROMフラッシュについて詳しくは、<http://h18000.www1.hp.com/im/prodinfo.html> (英語サイト) でHP Client Manager SoftwareまたはSystem Software Managerについての説明を参照してください。

ブート ブロックROM

ブートブロックROMが装備されているので、システムROMのアップグレード中に電源の障害が発生するなどしてROMの書き換えに失敗した場合も、システムROMを復旧またはアップグレードすることができます。ブートブロックはROMフラッシュの際にも更新されない領域に収められており、コンピュータの電源が入れられるたびにシステムROMフラッシュをチェックし、以下のどれかの方法でコンピュータを起動します。

- システムROMが有効な場合は、コンピュータは通常の方法で起動します。
- システムROMが有効でない場合は、システムROMの復旧作業を実行できるように、RomPaqディスクからのコンピュータの起動を、ブートブロックROMがサポートします。



一部のモデルでは、RomPaqCDから復旧することもできます。

ブートブロックROMによりシステムROMが有効でないことが検出されると、ビーブ音が8回鳴ります。ブートブロックのリカバリモードのメッセージが、画面に表示されます (一部のモデルのみ)。



ビープ音は8回鳴り、5回繰り返されてから停止します。

ブートブロックのリカバリ モードになったら、以下のように操作して、システムROMを復旧（アップグレード）してください。

1. ディスケット ドライブやCDドライブにディスクまたはCDが入っている場合は取り出し、コンピュータの電源を切ります。
2. RomPaqディスクをディスク ドライブに挿入します。または、お使いのコンピュータで使用できる場合は、RomPaq CDをCDドライブに挿入します。
3. コンピュータの電源を入れます。

RomPaqディスクまたはRomPaq CDが認識されない場合、RomPaqディスクを挿入してコンピュータを再起動するように指示されます。

スーパーバイザ パスワードが設定されている場合、Caps Lock ランプが点灯し、パスワード入力を求められます。

4. スーパーバイザ パスワードを入力します。

RomPaqディスクまたはCDからの再起動が正しく行われ、システムROMの復旧またはアップグレードが正常に完了すると、ビープ音が鳴ります。

5. ディスケットまたはCDを取り出して電源を切ります。
6. 電源を入れなおして、コンピュータを起動します。

リプリケート セットアップ機能

コンピュータの設定情報を他の同じモデルのコンピュータにコピーするために、HPはSystem Software ManagerというWindowsベースのソフトウェアユーティリティ (<http://www.hp.com/go/ssm/> からダウンロード可能) およびCMOS Save/LoadユーティリティというDOSベースのソフトウェア (<http://www.hp.com/support/files/> からダウンロード可能) を提供しています。HP サポートのWebサイトを表示してから、説明に沿ってコンピュータの名前を入力してください。

起動可能デバイスの作成

サポートされるUSBフラッシュ メディア デバイス

HP USBメモリなどのサポートされるデバイスには、そのデバイスを簡単な手順で起動可能にするためのイメージがプリインストールされています。使用しているUSBフラッシュ メディア デバイスにこのイメージが存在しない場合は、後で説明する手順に従ってください（[15ページの「サポートされないUSBフラッシュ メディア デバイス」](#)を参照）。



注意：USBフラッシュ メディア デバイスから起動できないコンピュータもあります。コンピュータセットアップ (F10) ユーティリティに表示されるデフォルトの起動順序で、USBデバイスがハードディスク ドライブより前にある場合、そのコンピュータはUSBフラッシュ メディア デバイスから起動できます。それ以外の場合は、起動可能ディスクットを使用してください。

起動可能なUSBフラッシュ メディア デバイスを作成するには、次のものが重要です。

- HP Business Desktop dx5150シリーズのコンピュータ（MTまたはSTモデル）

BIOSによっては、将来リリースされるコンピュータでもUSBフラッシュメディア デバイスからの起動がサポートされる場合があります。

- 256MB HP USBメモリIIストレージ モジュール

- FDISKおよびSYSプログラムが格納された、起動可能なDOSディスクット。SYSがない場合はFORMATを使用できますが、USBメモリ上のファイルがすべて失われます。

1. コンピュータの電源を切ります。
2. USBメモリをコンピュータのUSBポートのどれかに差し込み、USBディスクット ドライブ以外のすべてのUSBストレージ デバイスを取り外します。
3. FDISK.COMと、SYS.COMまたはFORMAT.COMのどちらかが格納された起動可能なDOSディスクットをディスクット ドライブに挿入します。コンピュータの電源を入れて、DOSディスクットを起動します。

4. A:¥プロンプトで「**FDISK**」と入力して[**Enter**]キーを押し、FDISKを実行します。メッセージが表示されたら、[**Yes (Y)**]をクリックして大容量ディスクのサポートを有効にします。
5. 選択肢の「**5**」を入力してコンピュータのドライブを表示します。一覧のドライブの中で最も容量に近いドライブがUSBメモリで、通常は一覧の最後に表示されます。ドライブ名を書き留めておきます。

USBメモリのドライブ名 : _____



注意：ドライブがUSBメモリと一致しない場合は、データの損失を防ぐため、次の手順に進まないでください。他にストレージデバイスがないか、すべてのUSBポートを確認します。あった場合は取り外してコンピュータを再起動し、手順4に進みます。ない場合、コンピュータがUSBメモリに対応していないか、USBメモリが破損しています。この場合はUSBメモリを起動可能にするための手順を実行しないでください。

6. [**Esc**]キーを押してA:¥プロンプトに戻り、FDISKを終了します。
7. 起動可能なDOSディスクにSYS.COMがある場合は手順8に、ない場合は手順9に進みます。
8. A:¥プロンプトで「**SYS x:**」(xは書き留めたドライブ名)と入力します。



注意：USBメモリのドライブ名を正しく入力したことを確認します。

システム ファイルの転送が完了すると、SYSからA:¥プロンプトに戻ります。手順13に進みます。

9. 保存しておきたいファイルをUSBメモリから別のドライブ (コンピュータの内蔵ハードディスク ドライブなど) の一時ディレクトリにコピーします。
10. A:¥プロンプトで「**FORMAT /S X:**」(xは書き留めたドライブ名)と入力します。



注意：USBメモリのドライブ名を正しく入力したことを確認します。

FORMATでは1つ以上の警告が表示され、次の手順に進む前に毎回確認画面が表示されます。毎回「**Y**」と入力します。FORMATによりUSBメモリがフォーマットされ、システム ファイルが追加され、ボリューム ラベルが要求されます。

11. ラベルを付けない場合は[Enter]キーを押し、必要な場合はラベルを入力します。
12. 手順9でコピーしたファイルをUSBメモリにコピーしなおします。
13. ディスケットを取り出し、コンピュータを再起動します。USBメモリがCドライブとして起動されます。



デフォルトの起動順序はコンピュータによって異なり、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティで変更することができます。

Windows 9xからDOSバージョンを使用した場合、短い間Windowsロゴの画面が表示されることがあります。表示されないようにするには、USBメモリのルートディレクトリにLOGO.SYSというゼロ長のファイルを追加します。

サポートされないUSBフラッシュ メディア デバイス



注意：USBフラッシュ メディア デバイスから起動できないコンピュータもあります。コンピュータセットアップ (F10) ユーティリティに表示されるデフォルトの起動順序で、USBデバイスがハードディスク ドライブより前にある場合、そのコンピュータはUSBフラッシュ メディア デバイスから起動できます。それ以外の場合は、起動可能ディスクットを使用してください。

起動可能なUSBフラッシュ メディア デバイスを作成するには、次のものが必要です。

- HP Business Desktop dx5150シリーズのコンピュータ (MTまたはSTモデル)
BIOSによっては、将来リリースされるコンピュータでもUSBフラッシュメディアデバイスからの起動がサポートされる場合があります。
 - FDISKおよびSYSプログラムが格納された、起動可能なDOSディスクット。SYSがない場合はFORMATを使用できますが、USBメモリ上のファイルがすべて失われます。
1. SCSI、ATA RAID、またはSATA ドライブが取り付けられたPCIカードがコンピュータにある場合は、コンピュータの電源を切って電源コードを抜き取ります。



注意：電源コードは**必ず**抜き取ってください。

2. コンピュータのカバーを開いてPCIカードを取り外します。
3. USBフラッシュ メディア デバイスをコンピュータのUSBポートのどれかに差し込み、USBディスク ドライブ以外のすべてのUSBストレージデバイスを取り外します。コンピュータのカバーを閉じます。
4. 電源コードを差し込んでコンピュータの電源を入れます。
5. コンピュータが起動したらすぐに**[F10]**キーを押したままにし、コンピュータ セットアップを実行します。必要であれば、**[Enter]**キーを押すと、タイトル画面をスキップできます。



適切なタイミングで**[F10]**キーを押せなかったときは、コンピュータを再起動して、もう一度**[F10]**キーを押したままにしてください。

PS/2キーボードを使用している場合、**[Keyboard Error]**というメッセージが表示されることがありますが、無視してかまいません。

6. **[Integrated Peripherals]** (統合周辺機器) → **[South OnChip PCI Device]** (South OnChip PCI デバイス) の順に選択してIDEコントローラおよびSATAコントローラを無効にします。変更を保存してコンピュータ セットアップを終了します。
7. FDISK.COMと、SYS.COMまたはFORMAT.COMのどちらかが格納された起動可能なDOSディスクをディスク ドライブに挿入します。コンピュータの電源を入れて、DOSディスクを起動します。
8. FDISKを実行してUSBフラッシュ メディア デバイス上にあるパーティションをすべて削除します。新しいパーティションを作成して有効にします。**[Esc]**キーを押してFDISKを終了します。
9. FDISKを終了してもコンピュータが自動的に再起動されない場合は、**[Ctrl] + [Alt] + [Del]**キーを押してDOSディスクから起動しなおします。
10. A:¥プロンプトで「**FORMAT C: /S**」と入力し、**[Enter]**キーを押します。FORMATによりUSBフラッシュ メディア デバイスがフォーマットされ、システム ファイルが追加され、ボリューム ラベルが要求されます。
11. ラベルを付けない場合は**[Enter]**キーを押し、必要な場合はラベルを入力します。

12. コンピュータの電源を切って電源コードを抜き取ります。コンピュータのカバーを開き、取り外しておいたPCIカードを取り付けなおします。コンピュータのカバーを閉じます。
13. 電源コードを差し込み、ディスクレットを取り出してコンピュータの電源を入れます。
14. コンピュータが起動したらすぐに**[F10]**キーを押したままにし、コンピュータ セットアップを実行します。必要であれば、**[Enter]**キーを押すと、タイトル画面をスキップできます。
15. **[Integrated Peripherals]** (統合周辺機器) → **[South OnChip PCI Device]** (South OnChip PCIデバイス) の順に選択して、手順6で無効にしたIDEおよびSATAコントローラを再び有効にします。
16. 変更を保存してユーティリティを終了します。USBフラッシュ メディア デバイスがCドライブとして起動されます。



デフォルトの起動順序はコンピュータによって異なり、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティで変更することができます。手順については、Documentation CD (ドキュメンテーションCD) に収録されている『コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティガイド』を参照してください。

Windows 9xからDOSバージョンを使用した場合、短い間Windowsロゴの画面が表示されることがあります。表示されないようにするには、USBフラッシュ メディア デバイスのルート ディレクトリにLOGO.SYSというゼロ長のファイルを追加します。

デュアル ステート電源ボタンの設定

お使いのコンピュータでACPI (Advanced Configuration and Power Interface) を使用している場合は、電源ボタンをコンピュータのオン/オフ スイッチとしての機能のほか、スタンバイ モードを起動するためのボタンとして設定することができます。スタンバイ モードでは、電源を完全に切らずに、コンピュータの消費電力を低い状態に保つことができます。使用中のアプリケーションを終了せずに作業を途中で中断したい場合など、スタンバイ モードに設定しておくことでコンピュータの電力を低く抑えることができます。

電源ボタンの設定を変更するには、以下の手順で操作します。

1. [スタート]ボタンを左クリックし、[コントロール パネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[電源オプション]の順に選択します。
2. [電源オプションのプロパティ]で[詳細設定]タブを選択します。
3. [電源ボタン]で[スタンバイ]を選択します。

電源ボタンにスタンバイ ボタンとしての機能を設定してある場合は、コンピュータの電源が入っているときに電源ボタンを押すと、スタンバイ モードを起動することができます。再び電源ボタンを押すと、直ちにスタンバイモードから復帰できます。コンピュータの電源を完全に切るには、電源ボタンを4秒以上押し続けます。



注意：システムが応答しない場合以外は、電源ボタンを使って電源を切らないでください。オペレーティング システムを通さずに電源を切ると、ハードディスク ドライブが破損したりデータが損失したりする可能性があります。

インターネット Web サイト

HPの技術者はHP製および他社製のソフトウェアのテストおよび修正を厳密に行い、オペレーティング システムに特化したサポート ソフトウェアを開発しています。このため、HPのコンピュータは優れた性能、互換性、および信頼性を兼ね備えています。

別の種類のオペレーティング システムをインストールしたり新しいバージョンのオペレーティング システムに移行したりする場合、それぞれのオペレーティング システム用に設計されたサポート ソフトウェアを実行してください。お使いのコンピュータにインストールされているバージョンと異なるバージョンのMicrosoft Windowsを実行したい場合、対応するデバイス ドライバおよびユーティリティをインストールして、すべての機能がサポートされ、正しく動作することを確認してください。

HPでは、快適な環境で効率的にコンピュータをお使いいただくために、最新のデバイス ドライバ、ユーティリティ、フラッシュ ROMイメージなどを収録したサポート ソフトウェアを提供しています。サポート ソフトウェアはHPのWebサイト (<http://www.hp.com/support/>) からダウンロードできます。

HP のホームページには、HP 製のコンピュータでMicrosoft Windows のオペレーティング システムを実行する際に必要な最新のデバイス ドライバ、ユーティリティ、フラッシュ ROMイメージなどが用意されています。

標準規格およびパートナー企業

HPのインテリジェント マネジメント機能は、各社のシステム マネジメントアプリケーションを取り入れており、次のようなコンピュータ業界の標準規格に準拠しています。

- Web-Based Enterprise Management (WBEM)
- Windows Management Interface (WMI)
- Wake on LANテクノロジー
- ACPI
- SMBIOS
- Pre-boot Execution (PXE) サポート

資産情報管理機能およびセキュリティ機能

コンピュータに搭載される資産情報管理機能を使用すれば、HP Systems Insight Manager、HP Client Manager Software、またはその他のシステム管理アプリケーションを使用して管理される資産情報を確認することができます。資産情報管理機能とこれらの管理ソフトウェア製品を統合することにより、お使いの環境に最適な管理ソフトウェアを選択でき、今までお使いになっていたソフトウェアをより有効に活用できます。

さらに、HPでは、コンピュータとデータを不正なアクセスから保護するための機能を備えています。HP ProtectTools内蔵セキュリティがインストールされている場合は、データへの不正なアクセスの防止、システムの整合性の確認、および第三者からのアクセスに対する認証が行われます。（詳しくは、Documentation CDに収録されている『HP ProtectTools内蔵セキュリティガイド』を参照してください。）一部のモデルに装備されているProtectToolsのようなセキュリティ機能は、コンピュータの内部装置への不正なアクセスの防止に役立ちます。パラレルポート、シリアルポート、またはUSBポートを無効にすることにより、またリムーバブルメディアブート機能を無効にすることにより、貴重な資産であるデータを保護できます。これ以外にも、メモリ脱着通知が自動的にシステム管理アプリケーションに転送されることで、コンピュータの内部装置への不正なアクセスを防ぐことができます。






ProtectToolsは一部のシステムに装備されています。

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティを使用して、ローカルでHPコンピュータのセキュリティ設定を管理します。コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティの詳細な情報と手順については、コンピュータに付属のDocumentation CDに収録されている『コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティガイド』を参照してください。

次の表と各項で、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティを使ってローカルでコンピュータのセキュリティ機能を管理する方法を説明します。

セキュリティ機能

項目	説明
スーパーバイザ パスワード (Supervisor Password)	<p>スーパーバイザ (管理者) パスワードを設定して有効にします</p> <p> スーパーバイザ パスワードを設定すると、コンピュータ セットアップ ユーティリティの設定を変更したり、ROMをフラッシュしたり、Windows環境で特定のプラグ アンド プレイ設定を変更したりする場合にスーパーバイザ パスワードが必要になります</p> <p>詳しくは、Documentation CDに収録されている『トラブルシューティングガイド』を参照してください</p>
ユーザ パスワード (User Password)	<p>ユーザ パスワードを設定して有効にします</p> <p> ユーザ パスワードを設定すると、電源投入後コンピュータにアクセスするためにユーザ パスワードが必要になります</p> <p>詳しくは、Documentation CDに収録されている『トラブルシューティングガイド』を参照してください</p>
デバイス セキュリティ (Device Security)	<p>シリアル ポート (Serial Port)、パラレル ポート (Parallel Port)、前面のUSB ポート (Front USB Port)、システムのオーディオ セキュリティ (Audio Security)、およびモデルによってはネットワーク コントローラ (Network Controller) のデバイス有効 (Enable) /デバイス無効 (Disable) の設定</p>
ネットワーク サービス ブート (Network Service Boot)	<p>ネットワーク サーバにインストールされたオペレーティング システムからコンピュータを起動する機能の有効/無効の設定 (NIC (LANボード) が搭載されているモデルのみで使用でき、ネットワーク コントローラがPCIバス上に存在するか、システム ボードに組み込まれている必要があります)</p>
システムID (System ID)	<p>次の項目を設定します</p> <ul style="list-style-type: none"> アセット タグ (Asset Tag, 18バイトのID) およびオーナーシップ タグ (Ownership Tag, POST実行中に表示される80バイトのID) の入力 本体シリアル番号 (Chassis Serial Number) またはUUID (Universal Unique Identifier) の入力 UUIDは現在の本体シリアル番号が無効の場合にのみ更新できます (通常これらの識別 (ID) 番号は工場出荷時に設定され、そのシステムを特定するために使用されます) キーボード (Keyboard Locale) の設定 英語用やドイツ語用などをシステムIDエントリに対して設定します
	<p>コンピュータ セットアップについて詳しくは、Documentation CDに収録されている『コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ ガイド』を参照してください。</p> <p>サポートされるセキュリティ機能は、お使いのコンピュータの構成によって異なる場合があります。</p>

パスワードのセキュリティ

ユーザパスワード (User password) を設定すると、コンピュータの電源を入れたり再起動したりするたびに、アプリケーションやデータにアクセスするためのパスワードの入力が要求されるので、コンピュータが許可無く使用されることを防止できます。スーパーバイザパスワード (Supervisor password) は、特にコンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティへの不正アクセスを防ぎます。スーパーバイザパスワードを、ユーザパスワードの補助手段として使用することもできます。つまり、ユーザパスワードの入力を要求されたときに、代わりにスーパーバイザパスワードを入力してコンピュータにアクセスすることもできます。

ネットワーク全体のセットアップパスワードを設定しておく、システム管理者はネットワーク上のすべてのシステムにログインでき、ユーザパスワードを知らなくてもメンテナンスを行うことができます。

スーパーバイザパスワードの設定

システムに内蔵セキュリティデバイスが搭載されている場合は、Documentation CDに収録されている『HP ProtectTools内蔵セキュリティガイド』を参照してください。コンピュータセットアップ (F10) ユーティリティで、スーパーバイザパスワードを設定しておけば、無断でコンピュータの設定が変更されることを防止できます。

1. コンピュータの電源を入れるか、[スタート]→[シャットダウン]→[再起動]→[OK]の順に選択して再起動します。
2. コンピュータが起動したらすぐに[F10]キーを押したままにし、コンピュータ セットアップを実行します。必要であれば、[Enter]キーを押すと、タイトル画面をスキップできます。



適切なタイミングで[F10]キーを押せなかったときは、コンピュータを再起動して、もう一度[F10]キーを押したままにしてください。

PS/2キーボードを使用している場合、[Keyboard Error]というメッセージが表示されることがありますが、無視してかまいません。

3. **[Set Supervisor Password]** (スーパーバイザ パスワードを設定) を選択してパスワードを入力します。
4. 設定を終了するには、**[Save & Exit Setup]** (保存してセットアップを終了) を選択します。

ユーザ パスワードの設定

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティで、ユーザ パスワードを設定しておけば、無断でコンピュータが使用されることを防止できます。

1. コンピュータの電源を入れるか、**[スタート]**→**[シャットダウン]**→**[再起動]**→**[OK]**の順に選択して再起動します。
2. コンピュータが起動したらすぐに**[F10]**キーを押したままにし、コンピュータ セットアップを実行します。必要であれば、**[Enter]**キーを押すと、タイトル画面をスキップできます。



適切なタイミングで**[F10]**キーを押せなかったときは、コンピュータを再起動して、もう一度**[F10]**キーを押したままにしてください。

PS/2キーボードを使用している場合、**[Keyboard Error]**というメッセージが表示されることがありますが、無視してかまいません。

3. **[Set User Password]** (ユーザ パスワードを設定) を選択してパスワードを入力します。
4. 設定を終了するには、**[Save & Exit Setup]** (保存してセットアップを終了) を選択します。

ユーザ パスワードの入力

ユーザ パスワードを入力するには、以下の手順で操作します。

1. コンピュータの電源を入れるか、**[スタート]**→**[シャットダウン]**→**[再起動]**→**[OK]**の順に選択して再起動します。
2. **[Enter Password]** (パスワードの入力) ボックスが表示されたら、パスワードを入力して**[Enter]**キーを押します。



機密保護のため、入力したパスワードは画面に表示されません。パスワードを入力する際は、間違えないよう注意してください。

間違ったパスワードを入力した場合は、[Invalid Password, Press any key to continue!] (パスワードが無効です。続行するには何かキーを押してください!) というメッセージが表示されますので、パスワードを正しく入力しなおしてください。続けて3回間違えた場合は、コンピュータの電源をいったん切って最初から操作しなおす必要があります。

スーパバイザ パスワードの入力

システムに内蔵セキュリティ デバイスが搭載されている場合は、Documentation CDに収録されている『HP ProtectTools内蔵セキュリティ ガイド』を参照してください。

コンピュータでスーパバイザ パスワードを設定すると、コンピュータセットアップ (F10) ユーティリティを実行するたびに、必ずパスワードの入力が必要となります。

1. コンピュータの電源を入れるか、[スタート]→[シャットダウン]→[再起動]→[OK]の順に選択して再起動します。
2. コンピュータが起動したらすぐに[F10]キーを押したままにし、コンピュータ セットアップを実行します。必要であれば、[Enter]キーを押すと、タイトル画面をスキップできます。



適切なタイミングで[F10]キーを押せなかったときは、コンピュータを再起動して、もう一度[F10]キーを押したままにしてください。

PS/2キーボードを使用している場合、[Keyboard Error]というメッセージが表示されることがありますが、無視してかまいません。

3. [Enter Password] (パスワードの入力) ボックスが表示されたら、スーパバイザ パスワードを入力して[Enter]キーを押します。



機密保護のため、入力したパスワードは画面に表示されません。パスワードを入力する際は、間違えないよう注意してください。

間違ったパスワードを入力した場合は、[Invalid Password, Press any key to continue!] (パスワードが無効です。続行するには何かキーを押してください!) というメッセージが表示されますので、パスワードを正しく入力しなおしてください。続けて3回間違えた場合は、コンピュータの電源をいったん切って最初から操作しなおす必要があります。

ユーザ パスワードまたはスーパーバイザ パスワードの変更

システムに内蔵セキュリティ デバイスが搭載されている場合は、Documentation CDに収録されている『HP ProtectTools内蔵セキュリティ ガイド』を参照してください。

1. コンピュータの電源を入れるか、[スタート]→[シャットダウン]→[再起動]→[OK]の順に選択して再起動します。
2. [Enter Password] (パスワードの入力) ボックスが表示されたら、必要であればユーザ パスワードを入力します。
3. [Enter]キーを押します。
4. [F10]キーを押したままにし、コンピュータ セットアップを実行します。必要であれば、[Enter]キーを押すと、タイトル画面をスキップできます。



適切なタイミングで[F10]キーを押せなかったときは、コンピュータを再起動して、もう一度[F10]キーを押したままにしてください。

PS/2キーボードを使用している場合、[Keyboard Error]というメッセージが表示されることがありますが、無視してかまいません。

5. コンピュータ セットアップにアクセスする際に[Enter Password] (パスワードの入力) ボックスが表示されたら、必要であればスーパーバイザ パスワードを入力します。
6. [Enter]キーを押します。
7. [Set Supervisor Password] (スーパーバイザ パスワードを設定) または [Set User Password] (ユーザ パスワードを設定) を選択します。
8. [Enter Password] (パスワードの入力) ボックスが表示されたら、新しいパスワードを入力して[Enter]キーを押します。
9. 設定を終了するには、[Save & Exit Setup] (保存してセットアップを終了) を選択します。



パスワードを変更するのではなく削除するには、[Enter Password] (パスワードの入力) ボックスが表示されたときに新しいパスワードを入力せずに[Enter]キーを押します。これにより現在のパスワードが削除されます。

ユーザ パスワードを忘れてしまった場合

設定しておいたユーザ パスワードを忘れると、コンピュータを使用できなくなります。パスワードを解除する方法については、Documentation CDに収録されている『トラブルシューティングガイド』を参照してください。

システムに内蔵セキュリティ デバイスが搭載されている場合は、Documentation CDに収録されている『HP ProtectTools内蔵セキュリティ ガイド』を参照してください。

ケーブル ロックの取り付け

コンピュータのリア パネルにはケーブル ロックを取り付けられるようになっているので、市販のケーブル ロックを使用して、コンピュータを作業エリアに固定できます。

詳しくは、Documentation CDに収録されている『ハードウェア リファレンスガイド』を参照してください。

障害通知および復旧機能

障害通知および復旧機能とは、最新のハードウェア/ソフトウェア技術を結合して、重要なデータの損失を防ぎ、故障時間を最小限に抑える機能です。

HP Client Manager Softwareによって管理されるネットワークにコンピュータが接続されている場合、ネットワーク管理ソフトウェアに障害通知が送られます。HP Client Manager Softwareでは、管理されているすべてのコンピュータで診断ユーティリティを実行し、失敗したテストの概要を作成するよう、リモートでスケジュールを設定することもできます。

耐サージ機能付連続供給電源装置

耐サージ機能が付いた連続供給電源によって、急激な電圧の変化に対処することができます。この電源装置は、データの損失やシステム ダウンを引き起こさずに2000 Vまでのサージ電圧に耐えられることが確認されています。

温度センサ機能

温度センサ機能は、ハードウェアとソフトウェアの統合により提供される機能で、コンピュータ内部の温度を監視します。温度が通常の範囲を超えると、画面上に警告メッセージが表示されるため、内部部品の故障やデータの損失が発生する前に対処することができます。

索引

A		コンピュータの導入	2
Altiris		ソフトウェアのサポート	19
AClient	2	リプリーケートセットアップ機能	13
Deployment Solution Agent	2	リモートROMフラッシュ	11
D		あ	
Dantz Retrospect Express	7	インターネットアドレス	
H		「Webサイト」を参照	
HP System Software Manager	6	オペレーティングシステム、重要な情報	18
HP USBメモリ		オペレーティングシステムの変更、重要な情報	18
起動可能	13～17	温度、コンピュータ内部	27
HPのインテリジェント マネジメント機能	1	温度センサ機能	27
P		か	
PCN (Proactive Change Notification)	8	起動可能デバイス	
Preboot Execution Environment (PXE)	3	HP USBメモリ	13～17
Proactive Change Notification (PCN)	8	USBフラッシュ メディア デバイス	13～17
PXE (Preboot Execution Environment)	3	USBフラッシュ メディア デバイス、起動可能	13～17
R		作成	13～17
ROM		ケーブルロックの取り付け	26
アップグレード	10	コンピュータ内部の温度	27
無効	11	コンピュータへのアクセスの制御	20
リモートフラッシュ	11	さ	
ROMのアップグレード	10	資産情報管理機能	20
ROMの保護、注意	10	システムの復旧	11
U		出荷時の設定	2
URL (Webサイト)		障害通知	27
「Webサイト」を参照		スーパバイザ パスワード	
W		削除	25
Webサイト		設定	22
Dantz Retrospect Express	8	入力	24
HP Client Manager	5	変更	25
Proactive Change Notification	8	セキュリティ	
ROMフラッシュ	10	機能、表	21
Subscriber's Choice	9	設定	20
System Software Manager	6	パスワード	22

セットアップ			
初期設定	2		
ソフトウェア			
Altiris AClient	2		
Altiris Deployment Solution Agent	2		
資産情報管理機能	20		
障害通知および復旧機能	27		
統合	2		
ブート ブロックROM	12		
復旧	2		
リモートROMフラッシュ	11		
リモートシステム インストール	3		
ソフトウェアのカスタマイズ	2		
た			
耐サージ機能付連続供給電源装置	27		
注意			
ROMの保護	10		
ディスク、複製	2		
デュアルステート電源ボタン	17		
電源供給、耐サージ機能	27		
電源ボタン			
設定	18		
デュアルステート	17		
電源ボタンの設定	18		
導入用ツール、ソフトウェア	2		
な			
入力			
スーパーバイザパスワード	24		
ユーザパスワード	23		
は			
廃止されたソリューション		9	
パスワード			
解除		26	
削除		25	
スーパーバイザ		22, 24	
セキュリティ		22	
入力		23, 24	
変更		25	
ユーザ		23	
パスワードの解除		26	
パスワードの削除		25	
パスワードの変更		25	
ブート ブロックROM		12	
複製用ツール、ソフトウェア		2	
復旧、ソフトウェア		2	
プリインストールされたソフトウェア イメージ		2	
変更通知		8	
ま			
無効なシステムROM		11	
や			
ユーザパスワード			
削除		25	
設定		23	
入力		23	
変更		25	
ら			
リモートROMフラッシュ		11	
リモートシステム インストール、アクセス		3	
リモートセットアップ		3	